

姫先取葉盤奉天皇、天皇取御箸、御飯盛給姫、如此總十度、略中、姫亦以葉盤奉天皇、天皇合盛八種肴於一枚授、姫給之、加盛汁物供之、等汁也、鮑、海藻、次菓子十二、葉盤列置如此、

〔古事記仲哀〕今寔思求其國者、三於天神地祇亦山神及河海之諸神、悉奉幣帛、我之御魂坐于船上、而真木灰納瓠、亦箸及比羅傳、多作、皆々散浮大海、以可度、

〔止由氣宮儀式帳〕職掌禰宜内人物忌事

父無位神主乙麻呂

右人行事與物忌共副御饌前追仕奉、又大御饌爾供奉、御枚手五十六枚、日別奉進、略中、又湯貴進

御枚手合千二百六十枚奉進、祭別四百廿枚、

〔神樂歌〕韓神末

也。比。良。天。乎。天。耳。止。利。毛。知。天。和。禮。加。良。加。見。乃。加。良。乎。支。世。武。哉。加。良。乎。支。世。牟。也。

〔萬葉集二〕後崗本宮御宇天皇代、有間皇子自傷結松枝、御歌二首、略中

家有者、笥爾盛飯乎、草枕旅爾之有者、椎之葉爾盛、

〔相摸集〕早夏

ふたかたにわが氏神をいのるかなこの手柏のひらでた、きて

〔夫木和歌抄七〕建長八年百首歌合夏

神山のかしはのひらで打た、きみわすゑいのる月は來にけり

〔夫木和歌抄三十四〕神祇

神山のまさきのかづらくる人ぞまづやひらでのかずはかくる、

此歌は、神祭日人々きて、かしはのあるをとりて、歌かきてとせめければよめると云々、

〔新勅撰和歌集九〕神祇、題えらす

惠慶法師

從二位行家

和泉式部